

令和7年度

印旛地区教育研究集会

生活科分科会 提案資料

研究主題

「思いやりの気持ちをもって、地域の人と交流ができる児童の育成」

～仲間と学び・地域とつながる～



第2部会 富里市立日吉台小学校

會田 拓哉

1 研究主題

「思いやりの気持ちをもって、地域の人と交流ができる児童の育成」
～仲間と学び・地域とつながる～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、次のとおりである。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(知識及び技能の基礎)

- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

(思考力・判断力・表現力等の基礎)

- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

(学びに向かう力・人間性等)

(2) 学校教育目標から

【学校教育目標】「ひとりだちできる子どもを育てる」

1. 基礎学力を身につけた子どもを育てる
2. 協力・協調できる子どもを育てる
3. 健康で生命を尊ぶ子どもを育てる

【めざす児童像】 ①粘り強く学ぶ子ども

②助け合う子ども

③たくましい子ども

【めざす学校像】 ○元気の良い挨拶、透き通った歌声が響く学校

○夢や希望を持ち、何事にも一生懸命に取り組む笑顔あふれる学校

○人とのかかわりを大切にし、思いやりの気持ちを持ち、認め合い、みんなで団結できる学校

○地域に開かれ、地域に愛される学校

本校では、一人の人間として、社会に貢献できる基礎を養うことができるように「ひとりだちできる子どもを育てる」という教育目標を掲げている。その具体的な方策として、「ねばり強く学ぶ子ども」「助け合う子ども」「たくましい子ども」をめざす子ども像とした。「ねばり強く学ぶ子ども」では、諦めずに自分を向上させていこうという気持ちを持ち続けていくこと。「助け合う子ども」では、友達と協働・協力することを通して、他の考えに共感したり相手の立場を尊重したりすることができるようになること。また、協力して目標を達成することから、そのよさを味わい、助け合うことを実践すること。「たくましい子ども」では、自分と他人の幸せを考え、困難に負けず、自己の能力を高め、よりよい生活を送ることができるようにすることをねらいとする。

今回の生活科「つくる 楽しさ はっけん」の学習で、「人とかかわりを大切にし、思いやりの気持ちを持ち、認め合い、みんなで団結できる学校」「地域に開かれ、地域に愛される学校」という、めざす学校像に迫っていけると考えた。

（３）児童の実態から

本校は、全校児童３２８人で、１４学級（特別支援２）である。朝の交通当番の保護者とは別に地域の方々が朝の登下校を見守ってくれている。一時期、コロナ禍で学習環境や生活などの制限がなされたが、徐々に緩和されたことで、地域の方とふれあう機会は朝だけでなく増えていった。児童の日記等を見ると、ふれあい祭りやコミュニティーセンターでのイベントなど、地域の行事にも参加している児童が多いことから、児童にとって地域との関わりは、自然に行われているものだと感じた。

そこで、生活科の「つくる 楽しさ はっけん」の学習を通して、地域の方々とつながることで、友達と協力し合ったり、地域の方々を思い考えたりしながら、交流することができるのではないかと考えた。

３ 研究仮説（研究仮説と手立て）

児童が自ら課題意識をもつことができれば、相手への思いやりの気持ちをもって、地域との交流につながるのではないかと考えた。

（１）仮説の手立て

①【児童が自ら課題意識をもつ】

活動目標や活動内容を具体的に示すことで、見通しをもって学習に取り組み、課題意識をもつことができるだろう。

- ・学習のはじめに、前時の復習をし、今日は何をやるのか児童が言えるようにする。
- ・学級全体で、「ぴよんぴよんガエル」を作り、友達と比較していく。また、教師見本を誰でも触れるように設置しておき、遊びを通して、自分が作ったものとの比較もできる。
- ・自分で選んだおもちゃを作る活動を取り入れることで、自身で材料や作り方を調べることがで

きる。

- ・昔遊びを体験することで、簡単で楽しいといった、よりよいおもちゃ作りへつながる。

②【相手への思いやりの気持ちをもって、地域との交流につながる】

おもちゃを作っている中で、気付いたことや発見したことなどを交流する場の設定や、地域交流の工夫をする。

- ・4～5人のグループを組むことで、話し合いながら、おもちゃ作りに取り組める。
- ・中間発表として、できたおもちゃを他のグループに遊んでもらい、意見をもらうことで修正でき、よりよいおもちゃに進化していく。また、他のグループの良かったところを自分のグループにも取り入れることができる。
- ・地域との交流を一方的にしないために数回の交流を設ける。
→昔遊びを教えてもらう。そのお礼に自分たちで作ったおもちゃで遊んでもらう。
- ・交流をさらに深めるために、「地域の人」ではなく、一人一人の名前を覚える。

4 授業実践

【2年生】

※本実践は令和6年度2年生の実践をもとに授業改善や仮説の検証を行ったものである。

(1) 単元名 つくる 楽しさ はっけん

(2) 単元について

①単元観

本単元は学習指導要領2内容(6)(8)に示された指導事項を受けて設定されたものである。

2 生活科の内容

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

児童は第一学年で、どんぐりマラカスのおもちゃや落ち葉を使ったかざり作りなど、身近にある自然を使ったもの作りを体験している。その中で、おもちゃ作りの楽しさや身近な自然にある素材の不思議さを感じている。本単元では、段ボールや牛乳パック、輪ゴムなど、身近にある材料を使い、おもちゃ作りを行っていく。活動を通して、自分が作りたいものを実現するためには、どのような材料が必要なのか、そしてどのような工夫をすればよいかなどについて試行錯誤したり、遊びの面白さに気付いたりすることができる。

本単元は3つの小単元で構成されている。小単元1「いろいろあるよ 楽しいおもちゃ」では、どんなおもちゃを作りたいのか、そのために必要な材料は何かを考えて準備し、実際におもちゃ作りをする。そして、遊び方を考えて、作ったおもちゃで遊びながら、さらなる意欲の喚起を図りたい。例えば、「ぴよんぴよんガエル」「ゴムロケット」では、「高く飛ぶお

もちゃを作りたい。」といった思いを、また「紙とんぼ」では、「もっと遠くへ飛ばしたい。」といった思いが出てきたりするだろう。小単元2「はっけんしたよ くふうしたよ」では、昔の子どもたちが遊んでいたおもちゃにも焦点をあて、どんな遊び道具があったのかを知る。さらに地域の方から、実際に昔の遊びを教えていただく。そして、教えていただいたお礼として、自分たちで作ったおもちゃを使つての「おもちゃあそびこうりゅう会」を設定する。地域の方にも楽しんでいただくようにするためにはどのような工夫をすればよいか、考えたり試したりしていく中で、おもちゃの面白さや不思議さにも気付かせたい。また、図書室の本などで調べたりしながら、よりよいおもちゃを作つて遊べるように準備をする。小単元3「もっと楽しく あそびたい」では、友達や地域の方と一緒に楽しく遊ぶためにはどうすればよいかなど、相手の立場に立って遊び方やルールを考え、活動を行う。

地域の方との交流を設定しているため、さらに楽しい遊び方を考えようとしていたり、相手に遊び方を分かりやすく伝えられるよう工夫したりする気持ちが高まることが期待できる。

②児童の実態

問い	回答
1 生活科の学習は、楽しいですか。	はい … 73% ふつう … 25% いいえ … 2%
2 今まで楽しかった学習は、どんなことですか。	
① 1年生：ともだちとなかよし	① 48%
② 1年生：はるとなかよし	② 33%
③ 1年生：あきとなかよし	③ 33%
④ 1年生：ふゆとなかよし	④ 27%
⑤ 2年生：1年生と学校たんけん	⑤ 73%
⑥ 2年生：春のあそびはっけん	⑥ 63%
⑦ 2年生：やさいのかんさつ	⑦ 69%
3 「おもちゃ」と言えば、何を思い浮かべますか。	・トミカ ・レゴブロック ・積み木 ・折り紙 ・トランプ ・パズル ・お手玉 ・ラジコン ・ポケモンカード ・ニンテンドースイッチ
4 今まで、「おもちゃ」を作つて遊んだことがありますか。	はい … 65% いいえ … 35%
それはどんなおもちゃですか。	・かざ車 ・弓矢 ・糸電話 ・輪投げ ・紙飛行機 ・ぶんぶんごま ・風船ロケット

5 「昔のあそび」と言えば、何を思い浮かべますか。	・めんこ ・おはじき ・あやとり ・かんけり ・こま ・けん玉 ・お手玉 ・だるまおとし ・竹馬 ・輪投げ
6 今まで、「昔のあそび」で遊んだことがありますか。	はい … 81% いいえ … 19%
それはどんなあそびですか。	・あやとり ・おはじき ・たこあげ ・こま ・けん玉 ・お手玉 ・だるまおとし ・かるた ・めんこ ・ビー玉
7 「遊びたいな」と思った時、自分から声をかけることができますか。	
① 同じクラスの人に	① できる…88% できない…12%
② 他のクラスの人に	② できる…79% できない…21%
③ 年下の人に	③ できる…46% できない…54%
④ 年上の人に	④ できる…42% できない…58%
8 「遊びたいな」と思った時、遊び方を教えることができますか。	
① 同じクラスの人に	① できる…88% できない…12%
② 他のクラスの人に	② できる…65% できない…35%
③ 年下の人に	③ できる…60% できない…40%
④ 年上の人に	④ できる…44% できない…56%
9 今まで、地域の方と触れ合ったことがありますか。	はい … 96% いいえ … 4%
10 今まで会ったり、触れ合ったりした地域の方のことをどう思いますか。	・みんなやさしい ・とても親切 ・いい人 ・いいなと思う
11 おもちゃ作りは楽しみですか。	楽しみ … 83% 少し不安がある … 17% 楽しみではない … 0%

それはなぜですか。	(楽しみ) ・ 作るのが楽しいから。 ・ いろんなおもちゃをつくってみたいから。 ・ つくったおもちゃで遊びたいから。 (少し不安がある) ・ うまくつくれなそうだから。 ・ 失敗しそうだから。
-----------	--

身近な人々や社会との関わりという点では、1年生の時に2年生との学校探検と地域の方との七夕祭りを、また、今年度は1年生との学校探検を経験している。5月に行った1年生との学校探検は、73%の児童が楽しいと答えおり、生活科の授業が楽しいと感じている児童も73%いる(質問1, 2)。しかし、実態調査の質問7, 質問8からは、自分から他者に関わろうとする割合は決して高くないことがわかる。よく知っている人とは積極的にコミュニケーションを取ることができるが、あまり関わったことのない人に対しては積極的に関わることはできない。人との関わり合いやコミュニケーションを苦手としている児童が多いのは、新型コロナウイルス感染予防の影響で、小学校入学前後の2～3年間、人と関わり合う活動が制限されていたことも少なからず影響しているのかもしれない。しかし、地域の方の印象としては、「優しい」「親切」など、ほとんど全部が好意的な意見であった(質問9, 10)。

おもちゃについては、幅広くいろいろなおもちゃを知っており、65%の児童が自分でおもちゃを作ったことがあり、昔の遊びを経験したことがある児童も81%いた。83%の児童がおもちゃ作りを楽しみにしている反面、少し不安に思っている児童も17%いることがわかった(質問11)。

③指導観

指導にあたっては、次の3点に留意して学習を進めていく。

まず、友達と教え合い、交流できるようにするための手立てとして、4～5人の小グループで活動させる。グループ内で一緒におもちゃを作る活動を通して、「こんな遊び方ができるよ。」と話しかけたり、「自分もそんな工夫がしたい。やり方を教えて。」などやり取りをしたりすることで、相手の思いや願いにも気付けるようになると考える。さらには、作ったおもちゃで友達と一緒に遊んだり、競争したりする活動を行うことで、友達と自分のおもちゃを比べ、それぞれの工夫やよさにも目を向けられるようにする。

次に、地域の方との交流を設定する際に、一方的な関わりとならないようにするための手立てとして、数回の交流を行えるような単元構成とする。地域の方から、昔の遊びについて教えていただいたことに対し、今度は自分たちにできることはないかを考え、「おもちゃあそびこうりゅう会」を開催する。地域の方を招待して教えるという課題をもたせることで、主体的に学習に取り組めるようにする意欲の向上を期待したい。地域の方に楽しんでもらうにはどんなルールにすればよいか、初めてそのおもちゃで遊ぶ人にも分かるように説明するにはどうすればよいかなどについて、相手の立場に立って考え話し合う時間を設けることで、他者のことを考えた行動につなげていき、最後のまとめとして手紙を書く。

そのような数回にわたる交流をすることを通して、今後も、相手とのつながりを大切にすることが出来る力を高めたい。

最後に、地域の方と子ども達一人一人との触れ合いがより深くなるようにするための手立てとして、参加者全員が名札を付けるようにする。そして、互いに名前呼び合いながら交流を進めていくようにしたい。

活動全体を通じて、身近な人々に関わることの楽しさが分かり、進んで交流しようとする姿につながられるようにしていく。

(3) 目標について

①単元目標

- ・遊びに使う物を作る面白さや、みんなで遊ぶ楽しさに気付くことができる。(知識及び技能)
- ・試行錯誤を繰り返しながら、身近にある物を使っておもちゃを作って遊んだり、遊びを考えたりすることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・友達や地域の方とのつながりを大切にし、よりよい遊びや遊び方を作り出すことができる。(学びに向かう力・人間性等)

②福祉教育の目標

- ・地域の方と個々に交流する中で、相手とのつながりを大切にし、進んで他者や社会と関わろうとする力を高めることができる。(他者や社会と関わる力)

(4) 指導計画 15時間

大単元「つくる 楽しさ はっけん」

総時数 15時間

小単元「いろいろ あるよ 楽しい おもちゃ」

5時間

小単元「はっけんしたよ くふうしたよ」

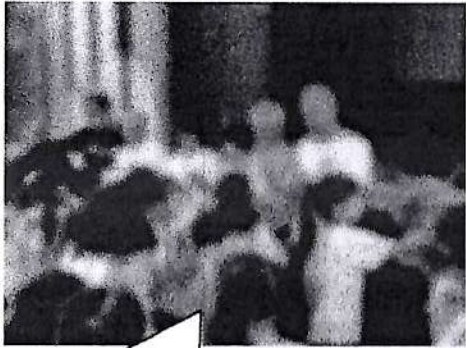
7時間

小単元「もっと 楽しく あそびたい」

3時間

小単元	時配	学習内容と学習活動	○評価規準(観点)【方法】
1 い ろ い ろ あ る よ 楽 し い お	1	・今までに、どんなおもちゃを作って遊んだことがあるかを考えて話し合う。	○身近にあるものを使っていろいろなおもちゃを作ることができることに気付いている。
	2	・どんなおもちゃを作るのか、必要な材料は何かを考え準備する。	(知識・技能)
	3	・「ぴよんぴよんガエル」を作り、実際に遊ぶことで動きの面白さや不思議さに気付く。	【発言・作品】 ○見つけたり、比べたり、試したり、見通したり、工夫したりして、よりよいおもちゃを作っている。
	4	・自分の好きなおもちゃを二つ選んで作り、友達と遊び合う。	(思考・判断・表現)
	5	・おもちゃ作りの本なども参考にしながら作っていく。	【観察・記録】 ○みんなと楽しく遊びたいという思いや願いをもって、おもちゃ作りに取り組もうとしている。

もちや	 	ゴムを増やしてみようかな。 (主体的に学習に取り組む態度) 【観察】
2 はつけんしたよ	6 ・昔の子ども達がどんなおもちゃで遊んでいたのかを知る。 7 ・地域の方から、「むかしのあそび」を教 8 えていただく。(資料①)(資料②)  	○今と昔のおもちゃについて比べ、違いを考えたり、見つけたりしている。(思考・判断・表現) 【観察・記録】 ○約束やルールを守って遊ぶことの楽しさに気付いている。 (知識・技能) 【発言】
	9 ・地域の方から「むかしのあそび」を教わったことをふり取り、自分たちにもできることを話し合う。教えていただいたお礼として、「おもちゃあそびこうりゅう会」計画を立てる。 ①どんな会にしたいか話し合う。 ②グループを決め、グループ毎にどんなおもちゃを作るか話し合う。 10 ・グループ毎に決めたおもちゃを作る。 11 ・作ったおもちゃをよりよく楽しく遊ぶためには、どうしたらよいか話し合う。 ・遊び方やルールなどを決め、工夫したことや発見したことをカードに書く。 ・地域の方が遊び方やルールを理解できるように、説明や看板などを作ったり、会場の準備をしたりする。	回し方を真似してみよう! ○よりよいおもちゃ遊びを目指して、遊び方を考えたり、試したりしながら、改良している。 (思考・判断・表現) 【観察・記録】 ○おもちゃやおもちゃ遊びに対して、より楽しめる活動への思いや願いをもち、作ろうとしている。

	12	・学年で「おもちゃあそびこうりゅう会」を行う。 ・1, 2組でチームを作り、実際に遊んでみる。 ・お互いの出し物を体験して良かった点と改善点を伝え合う。	(主体的に学習に取り組む態度) 【観察】 ③ 地域の方が楽しめるようなおもちゃ遊び交流会になるように、グループの友達と協力し合って遊び方の工夫を考え、準備をすることができる。 (他者や社会と関わる力)
3 も っ と 楽 し く あ そ び た い	13 14	・昔遊びのお礼として、地域の高齢者の方を「おもちゃあそびこうりゅう会」に招待し、作ったおもちゃを使って一緒におもちゃ遊びをする。 ① はじめの会。 ② 一緒におもちゃ遊び。 ③ おわりの会。  遊んでくれて ありがとうございました!	○遊びの約束やルールなどを改善しながら、遊びを工夫している。 (思考・判断・表現) 【観察・記録】 ○作ったおもちゃで遊ぶことについて、友達や地域の方と関わったり、相手の意見を尊重したりしながら、みんなと楽しく遊ぼうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【観察】 ③ 地域の方との活動の中で、相手とのつながりを大切にし、進んで他者や社会と関わろうとする力を高めることができる。 (他者や社会と関わる力)
	15 本時	・地域の高齢者の方との交流を振り返る。 交流会を終えての地域の方々からのメッセージを聞く。	○粘り強く挑戦することの大切さや、工夫を繰り返しながら、自分なりのおもちゃを作ることができた自分の成長に気付いている。 (知識・技能) 【発言・記録】 ③ 交流会の振り返りを通し、相手とのつながりを大切に考えることで、今後も進んで他者や社会と関わろうとする力を高めることができる。 (他者や社会と関わる力)

(5) 本時の指導 15/15

① 目標

- ・いろいろな工夫を繰り返しながら粘り強くおもちゃ作りに挑戦し、自分なりのおもちゃを作ることができた自分の成長に気付くことができる。(知識及び技能)
- ・地域の方との触れ合いの素晴らしさに気付くことができる。(知識及び技能)

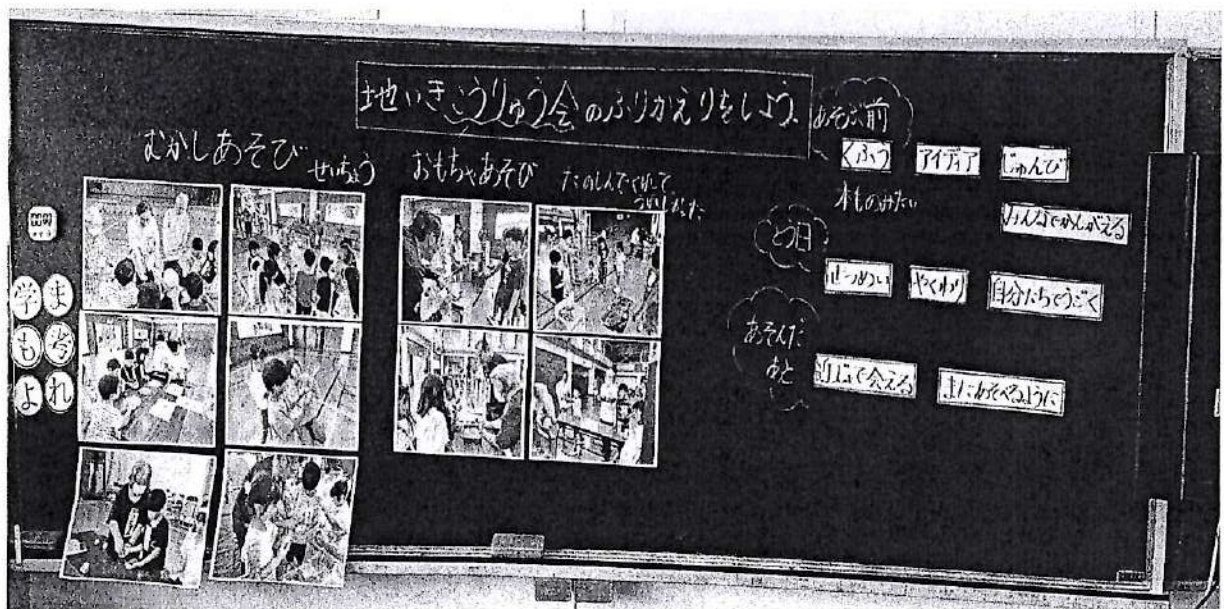
(福) 交流会の振り返りを工夫し、相手とのつながりを大切に考えることで、今後も進んで他者や社会と関わろうとする力を高めることができる。(他者や社会と関わる力)

② 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
1	1 本時のめあてを確認する。		
	地いきの方との「おもちゃあそびこうりゅう会」をふりかえろう。		
5	2 「おもちゃあそびこうりゅう会」での自分たちの活動を写真で振り返る。	・地域の方とのかかわりを想起させるために、児童と地域の方が会話している場面など、交流場面がはっきりとわかるような写真をまとめておく。	写真
4	3 掲示写真で地域の方の顔と名前を振り返る。(資料③)	・地域の方、一人一人を意識するために、交流した地域の方々の顔写真を掲示し、より具体的に活動を振り返ることができるようにする。	顔写真 (常時 掲示)
8	4 ふりかえりを書き、発表する。 ・〇〇さんが何回もやってくれてうれしかった。 ・〇〇さんに教えてできるようになってうれしかった。 ・〇〇さんが「楽しかったよ。」と言ってくれてがんばってよかった。	・交流会の感想を一人一人が振り返られるように、ワークシートに記入し、発表させ、自分の成長に気付くことができるようにする。 ○粘り強く挑戦することの大切さや、工夫を繰り返しながら、自分なりのおもちゃを作ることのできた自分の成長に気付いている。 (知識・技能)	ワーク シート
7	5 地域の方からのメッセージを聞き、これからも交流が続くようにするた	・地域の方からの感想を聞くことにより、教えてもらったり教えたり	地 域 の 方 の 手

	めに大切なことは何かを考える。 ・出会ったときにはあいさつをする。 ・会話をする。 ・手紙を書く。	することでの達成感がもてるようにする。 ・今後も交流が続くようにするために大切なことは何かを考えられるようにする。 福 交流会の振り返り方を工夫し、相手とのつながりを大切に考えることで、今後も進んで他者や社会と関わろうとする力を高めることができる。 (他者や社会と関わる力)	紙
15	6 交流した地域の方に手紙を書き、自分の思いを伝えられるようにする。	・全員が自分の思いを伝えられるように、文だけでなく絵も描ける便せんを用意しておく。 ○地域の方との触れ合いの素晴らしさに気付くことができたか。 (知識・技能)	便せん
5	7 どんな手紙を書いたのかを発表する。	・今回の交流を通して、成長できたことを忘れずに、今後も地域の方との関わりを大切にできるようにする。	

③板書



(6) 成果と課題

成果

- ・昔遊びを教えてもらったお返しに自分たちが作ったおもちゃを使い、地域の方々と交流をしたことで地域の方への意識や関心が強くなった。(資料②)
- ・「地域の方」ではなく、「〇〇さん」と名前を呼ぶことで距離を縮めることができた。
- ・顔写真と名前の掲示物は有効であった。(資料③)
- ・ご高齢の方が使うことを考慮して、操作しやすいように使う物を大きくしたり、体を動かせるおもちゃを作ったりして、より使う人のことを考えて作成することができた。
- ・振り返りで、地域の方々からいただいたお礼の手紙を読んだところ、「やってよかった」「また会いたい」「お礼の気持ちを手紙にしたい」など地域の方を想う心が育ち、心のつながりを感じた。

課題

- ・交流の際、「地域の方」ではなく名前で呼ぶように指導していたが、お礼の手紙を書くときに「地域の方」と書く児童がいた。どうしても書けない児童がいたため、「地域の方」でもよいと声をかけた。交流の時に地域の方一人一人と関われるような支援や声かけをする必要があった。

資料

①昔遊び交流会

・けん玉



けん玉のコツを教えてもらいました。



・お手玉



何度も挑戦



・こま



挑戦!



こまのひもの巻き方や
回し方を教わりました。

・めんこ



めんこの遊び方
持ち方、ひっくり返すコツを
教えてもらいました。



・あやとり



私にも教えて!

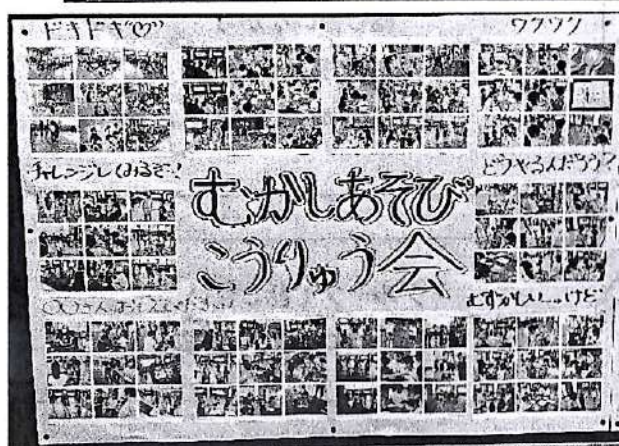
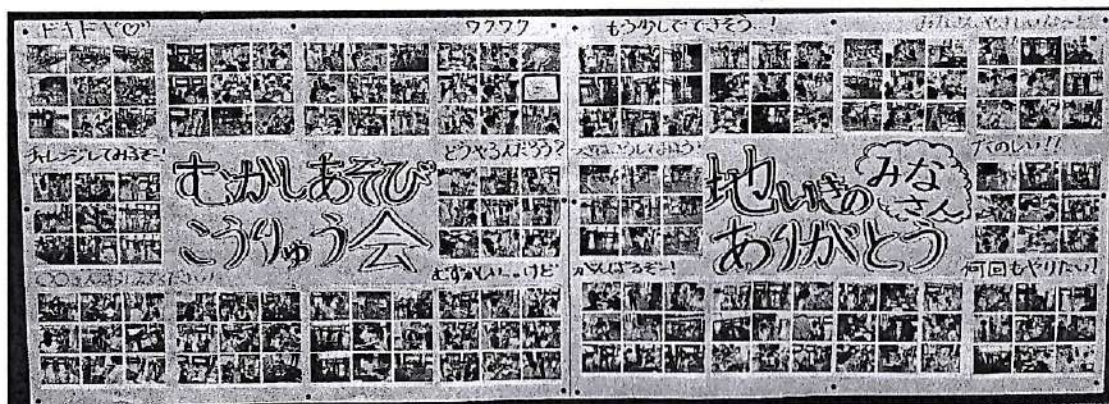
・おはじき



高得点がとれてうれしい!

②昔遊び交流会を思い出せるように学年掲示板に掲示

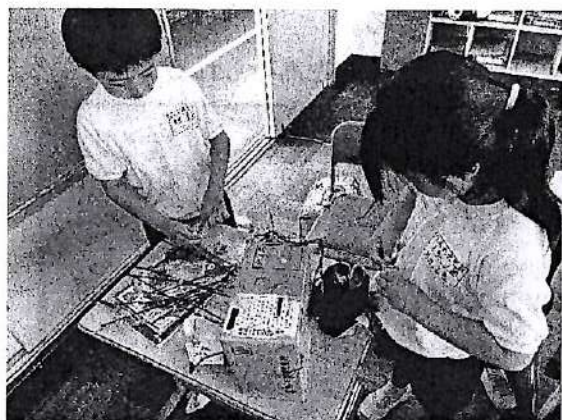
- ・つぶやきを書くことで、その時の気持ちを思い出せるようにする。
- ・自分たちのおもちゃで遊んでもらいたい！教えたい！という気持ちを高められるようにする。



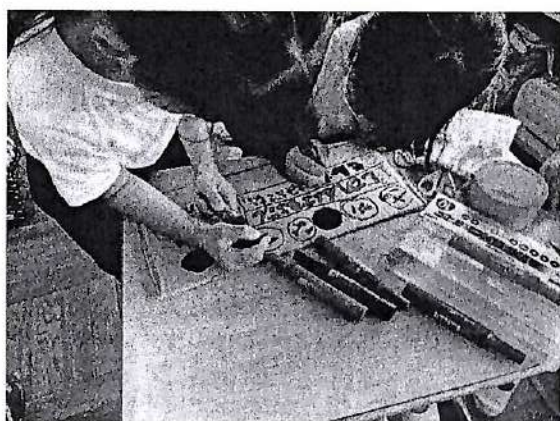
③「地域の方」ではなく、「〇〇さん」と呼べるように、写真を常時掲示した。



④お礼の気持ちを込めて、おもちゃ交流会のための準備を進める。

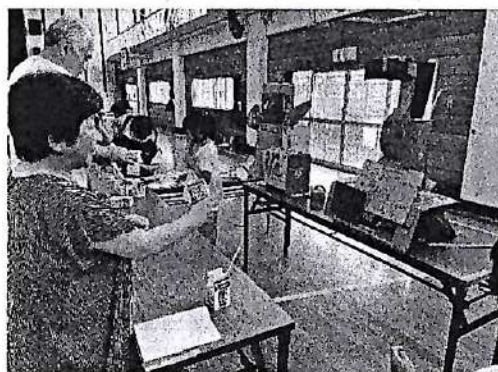


話し合いながら
役割分担をしながら
作業を進めていきます。



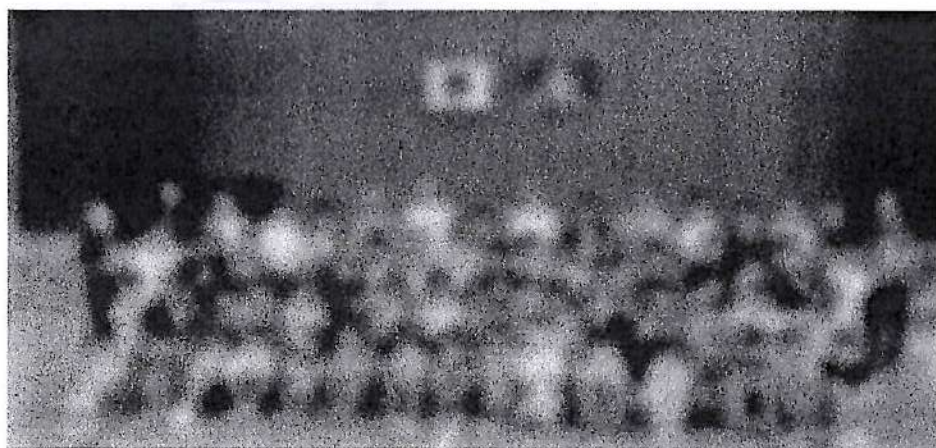
グループで話し合い、
看板を作成しています。

⑤おもちゃ遊び交流会



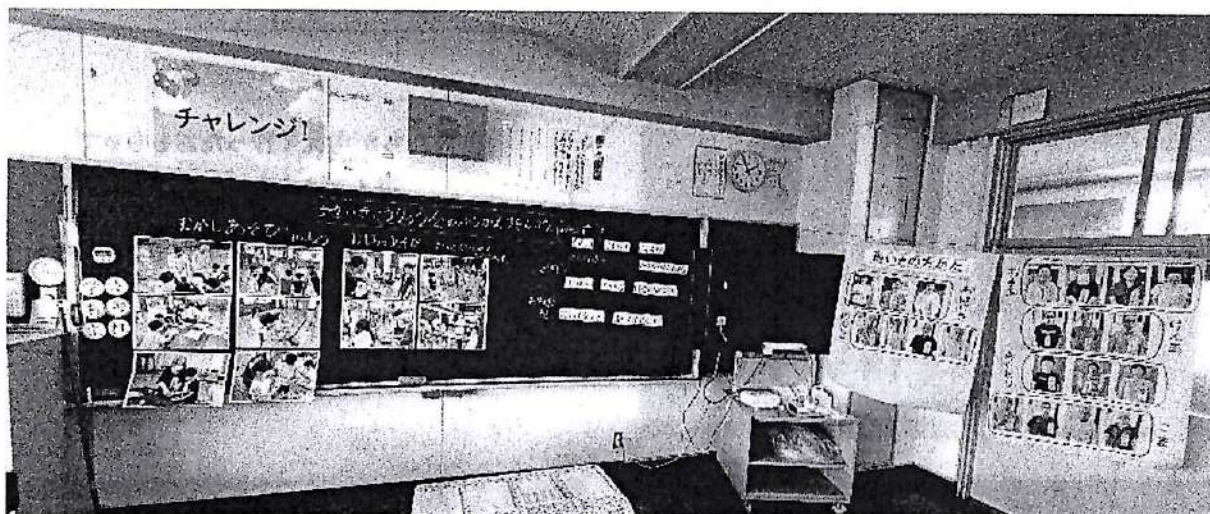


自分たちが考えて作ったおもちゃで
遊んでもらえました。
教えるのが楽しかったとの声もありました。



最後はみんなで写真を撮り、感謝の気持ちを伝えました。

⑥まとめ



- ・手紙の用紙は合理的配慮も踏まえ、3種類用意した。

A…手紙と絵をセットにしたもの

B…絵と手紙

C…絵のみ

どれを選んでも良いと伝えた。基本、生活科の発見カードなどはBで書くことが多かったので、今回もBを選んだ児童は多かった。

